



現場の写真撮影や測量ではドローンを駆使する山本翔太さん（いの町加田）



写真・土居賢一

ながら進めた工事は、県の優良建設工事に選ばれた。

「1年をかけた工事。完成時には、言いつ表せないほどの達成感と充実感があった。表彰は、皆のチームワークが評価されたこと」と顔をほころばせる就職するまで、建設業に抱いていたイメージは「外で作業して物を作り上げる」という漠としたものだった。それがどんどん明確になるを感じる。

「やがてしまえば、目立たない物もある。でも、地域の方が『普通の生活』を安全に送つてもらえる、なくてはならない仕事です」。目に力を込めて、そう話した。

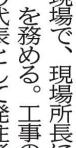
「普通の生活」支える

午前7時半。朝日に照らされた王佐市のに淀川河川敷に、ダンプカー運転手ら15人が集まってきた。ラジオ体操が終わると、「元気に指示を出す」「一般車両との接触に注意してください」。最後は全員で指をさし「合図よし!」。安全確認とともに一日が始まった。

「できるだけ朝礼がマンネリ化しないように、指示や掛け声の内容は毎日

国土交通省
高知市出典
「外で体を動かす」を続け、
協力会社へ、業務は多く
備を進める上
ぐ「現場代押
捲き」を管理。今

見発注の河床掘削と堤防整備現場で、現場所長に次「坪人」を務める。工事の進行の代表として発注者や住民との調整に当たるなど岐にわたる。



木工事を手掛ける福留開発（高知市）に就職した。

入社当初は、建材を運んだり現場の面積を測つたり。先輩らの作業を手伝い、仕事の流れを覚えた。「分からん」とや気付いたことがあれば書いておけ」とのアドバイスに従い、胸ポケットに忍ばせたメモ帳を引っ張り出しては書き付けた。成長の証しでもあるメモ帳は、20冊超になつた。「同じ現場は二つとない。目の前でできることを精

建設業の現場は、情報通信技術（ICT）の導入により、仕事が大きく変わりつつある。例えば、測量。従来は2人一組で行つてきたが、ICT対応機器なら1人でできる。図面データと瞬時に照合することも可能。場所によつてはドローンも駆使する。ただ、1人が機器を扱い始めた時に大きな失敗も。測量結果

662 人目・

建設会社員

山本翔太さん(24) やまもと しょうた

高知市南新田町

いっぱい覚え、次に生かす」。そんな気概と持ち前の体力で経験を重ねてきて

変えてます」
国土交通省

直発注の河床掘削と堤防整

立ちたい」と、2016年春、公共土木工事を手掛ける福留開発（高知市）

いっぱい覚え、次に生かす」。そんな気概と持ち前の体力で経験を重ねてきて